

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都世田谷区上馬
園名	フロンティアキッズ上馬

1. 活動のテーマ

<テーマ>

畑

<テーマの設定理由>

以前より畑やプランターでの栽培活動や、その作物でのクッキング活動に親しんできたため、その発展として稲の精米や、大豆を使つての豆腐作りを通じて自分たちの食事へのつながりを探ったり、本物の畑でその場で得られる体験をもとに、さらに食への興味関心を深められると考えるため。

2. 活動スケジュール

4月～12月 大豆の栽培～収穫～乾燥大豆の作成

それまでは枝豆としてクッキング活動をおこなっていたが、乾燥させて、大豆になる様子を観察

6月～11月 稲の栽培～収穫

プランターでの栽培

1月～ 大豆からできる食品について、絵本などを通じて調べる

そのうえで、豆腐作りに挑戦(収穫した大豆だけでは難しいため、豆乳も使用)

1月～ 収穫した稲を使用して、脱穀～精米の過程を体験する

(収穫した稲だけでは難しいため、市販の玄米等も使用)

3月 実際の畑での栽培や収穫、その場で食品に代わる様子を体験する。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子どもの姿・声、子そも同士や教諭との関わり 等を記載ください。

用意した素材、道具：

(稲)稲栽培キット、玄米、精米機

(大豆)大豆、豆乳、豆腐作り器

環境設定：

- ・以前からある「(絵本)かたちをかえる食べ物」「(図鑑)栽培」などを保育室に置き、子どもたちが自由に手に取れるようにし、育てている作物との因果関係に気づけるように配慮した。
- ・(稲)家庭用の精米機を用意し、玄米から家庭でも見慣れている白米に変わる様子、糠が出てくる様子を観察できるようにした
- ・(大豆)絵本の中で子どもたちが、なぜ固まるのかなどに興味を持っていた豆腐作りについておこなえるよう、豆腐作り器を準備した。

子どもたちの姿、保育者とのかかわり：

(稲)昨年度もおこなっていたため、子どもたちの中でも多少のイメージはあったが、粳摺り、精米の段階を経て白くなっていく様子は食い入るように見つめていた。

特に市販の玄米や白米と、精米過程のものを見比べることに興味を持った子が多かった。当初は、補填のために用意した玄米だったが、思いがけず比較するという活動に発展していった。また図鑑の中から、もみ殻からの育苗に気づいた子どもがいたため、水や土を用意した。更に、その中でも浮いてしまうもみ殻、沈んでいくもみ殻があり、なぜなのかという疑問につながった。

(大豆)枝豆を保育室で乾燥させていたが、どのくらい変化があるのか、日々観察する様子があった。豆腐作りの体験では、自分たちが収穫した大豆からはほんの少しの豆乳しか取れなかったことから、「本当はどのくらい必要なんだろう」「それにはどのくらいの畑が必要なんだろう」という疑問が年長児から出てきた。そのため、今度本物の畑に行ってみよう誘いかけ、年度末に畑を訪問した。実際に育てている様子を見て、自分たちの活動との共通点や違うところを見つけていた。栽培しているハーブを収穫し、ハーブティーの体験をおこなったが、生の時のにおいとお茶にした時のにおいが異なることに気づいていた。

豆腐はほぼ固まらなかったが、「もっと大豆を使ったら?」「(おいておく)時間が短かったじゃない」などの意見がたくさん出てきた。



精米の様子



もみ殻の選別



豆腐作り



畑体験

4. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

豆腐の失敗について、子どもたちの中に「次はこうしてみよう」という気持ちがあったようだった。

一回だけで終わらせるのではなく、異年齢合同クラスの良い部分として、一度経験した子が次年度にまた年下の子と一緒に取り組む機会を持てるように計画していきたいという声が上がった。